

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-83	A-11C	13-109
滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門		
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Alcohol consumption and breast cancer risk among women from five ethnic groups with light to moderate intakes: the Multiethnic Cohort Study. 5 民族集団における少量～中度のアルコール消費と乳がんの関連		
<b>執筆者</b>		
Park SY, Kolonel LN, Lim U, White KK, Henderson BE, Wilkens LR.		
<b>掲載誌</b>		
Int J Cancer. 2014 Mar 15;134(6):1504-10. doi: 10.1002/ijc.28476.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
乳がん 多民族 アルコール消費量 ハザード比		24037751
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b> 疫学研究においてアルコール消費の増加に対する乳がん発症リスクは中度のレベルにおいても関連が確認されている。しかしながら、その多くの研究成果は白人において確認されたものであり、多民族間やアルコール消費量が飲まない・少量・中度に分類される被験者での検証をハワイとカリフォルニアにて女性 85,089 名が参加した他民族コホート研究により確認する。</p> <p><b>方法：</b> 平均追跡期間 12.4 年で 3,885 症例の乳がんの症例を得た。コックス比例ハザードモデルを用い、交絡因子を調整し、ハザード比ならびに 95%信頼区間を推定した。</p> <p><b>結果：</b> 非飲酒者と比較して、飲酒者においてアルコール消費量増加と乳がん発症リスク増大に関連が認められ、1 日あたりのアルコール消費量 5-9.9g, 10-14.9g, 15-29.9g, 30 g 以上のそれぞれにおいてハザード比は 1.23 (95%信頼区間: 1.06-1.42), 1.21 (95%信頼区間: 1.00-1.45), 1.12 (95% 信頼区間: 0.95-1.31) and 1.53 (95% 信頼区間: 1.32-1.77)であった。正の相関は黒人、日系人、ラテン系アメリカ人、白人で確認されたが、ハワイ原住民では確認できなかった。エストロゲン受容体・プロゲステロン受容体(ER/PR)の状態に対するアルコール消費は正の関連を示した。</p> <p><b>結論：</b> 少量から中度のアルコール消費においても乳がんの発症リスクを増加させるという先行研究を裏付ける結果を得た。この関連は白人を除く他の民族で共通であり、ER/PR の状態に対して独立であった。</p>		